

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070600539		
法人名	社会医療法人 輝城会		
事業所名	グループホーム沼田公園前		
所在地	沼田市西倉内町 658		
自己評価作成日	平成29年9月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成29年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

沼田公園の入り口に立地し、恵まれた環境のもと公園に散歩に行ったり、公園で行われるイベントにも参加している。また、沼田の中心部にも近い立地条件を活かしながら、市で開催されるイベントにも積極的に参加できている。
公園前の理念にもあるように、家庭的な雰囲気大切に利用者へ寄り添い生活できるよう支援している。一人ひとりの「できる事」を大切に、生活のなかで役割を持って生活できるよう努めている。
健康管理としては、医療機関との連携を密にしており、看護師・管理栄養士・理学療法士等他職種で利用者をサポートするような体制になっている。
日常生活においてゆったりすごしていただいたり、利用者の希望に添えるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は公園前に立地し、年間を通して公園で行なわれるイベント等に気軽に参加できる環境にある。地域との関わり等を大切にして、事業所の納涼祭時には家族や多くの地域住民に参加を呼びかけ交流したり、地域行事への積極的な参加を行い馴染みの関係を築いたりすることで、地域のお祭り時には山車が事業所の玄関先まで入るなど利用者への配慮や地域の廃品回収への参加呼びかけなどをしていただき、交流を深めている。その他、毎年家族との忘年会を開催し多くの家族が参加するなど、利用者、家族との絆を大切に支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	名札の裏側に理念を印刷したカードを入れ、休憩場所の目の届くところに掲示したりして常に確認できるようにしている。また、勉強会を行い共有したり理念に基づいての支援をこころがけている。	職員は理念を理解し、一人ひとりの残存機能を大切にされた支援を心がけ、洗濯物干し・食器洗浄などできることをやっていただき、達成後は感謝の言葉がけを行い、楽しく豊かな生活が送れるよう支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われるイベントに参加したり、沼田祭りでは地域の方が山車を施設前まで見せにきてくれ交流を図っている。納涼祭でも毎年交流ができています。また、地域の廃品回収に入れていただいたり、認知症カフェの参加もしている。	事業所の納涼祭時は、地域へ参加を呼びかけている。区長より地域行事への案内をいただき参加したり、お祭りには山車が事業所前まで来てくれたり、地域の廃品回収に協力したりなど、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市で行っている認知症サポーター研修の実習の受け入れを行ったり、運営推進会議を活用し区長や民生委員などに現状や理解を深められるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で行っている運営推進会議では、現状や事故報告・ヒヤリハット等の報告も行い、参加者に意見や助言を頂いている。意見等は職員間で共有するよう努めている。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、利用状況や活動報告、ヒヤリハット・事故報告等を行い、意見交換している。出された意見等は職員間で話し合い、改善につなげている。出席できない家族には会議録を送付して、説明を行っている。	多くの参加者が得られるように開催日時等を検討するなど、活発な意見交換の場となるような取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の更新や変更届の提出時、また運営推進会議の案内や議事録を直接持参し、その際に相談等を行ったりしている。また避難訓練を行う際も声をかけ参加していただいている。	運営推進会議開催案内や各種書類を持参し、その都度事業所の状況を伝え相談を行っている。市主催の勉強会や認知症カフェへの参加を行い、認知症サポーター要請の援助を行うなど、連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については、日中見守りをしながら開錠し屋外での活動を行っている。その他では、その都度職員間で話し合い身体拘束がないようにしている。勉強会への参加、また施設内での勉強会が必要と考える。	外部研修や法人内研修に参加している。玄関は対応できない時を除き開錠し、玄関先での外気浴や公園への散歩・食材購入などに掛けている。動作に危険のある方はベッドサイドにセンサーマットを使用し、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉使いや態度に注意し、不適切な行為等はないかをお互いに確認しあえるよう努力している。職員ミーティング等で話し合いをおこない、意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用している方はいないが、知識向上・職員全員が理解するために勉強会等には積極的に参加したいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は契約書・重要事項説明書の内容を説明している。かつ書類を渡して内容を理解できるようにしてもらい、いつでも疑問点等あれば説明できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には利用者の現状や変化を適切に伝えられるようにしている。面会がない場合は、電話にて報告をおこなっている。意見や要望を聞き、支援している。	家族の面会時に、直接意見を聞くようにしている。また、事業所通信・電話・メール等で日々の生活の様子や事業所の運営状況を伝えながら、意見や要望等を聞くようにしている。毎年、家族との忘年会を開催し、食事をしながら気軽に話し合う場を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションをとるよう心がけ意見や提案を聴けるように努力している。職員面談も行い意見を聞いている。早急に着手できる事は対応している。	毎月の職員会議時は、介護方法についてや備品購入・設備面の要望について話し合いをしている。そうしたなか、利用者の重度化に伴い安全な入浴支援について話し合い、職員の介護負担の軽減などからリフト浴の導入が行われる等、意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員不足や設備の改善、必要なものなどには出来るだけ早く対応している。職員が向上心を持って働けるようチームケアに努めたり、業務改善を行い円滑に仕事ができるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会への参加は出来るだけ行っている。ケアに対しての指導などはその都度行う場合もある。問題がある時は、職員皆で考え解決できるよう助言している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列法人内で合同勉強会の参加を通じたネットワークづくりや納涼祭等での他事業所との相互訪問の活動で、情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安が大きい初期に信頼関係を築くため、1対1で話をしたり本人からの要望を聞き取り、本人の安心の確保が出来るよう努めている。また、本人が話やすい環境を作ることに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の生活について説明するようになっている。要望についてはどこまで施設で協力できるか、家族の協力が得られるかななどを面会や電話の機会を利用しその都度話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族からの聞き取りにて、必要としていること・施設での生活における不安等の相談に対応できるよう全職員が努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事を理解し、生活の中での役割を大切にして、本人が暮らしていると感じてもらえるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のことで相談があれば、家族にも話をして意見を聞かせてもらうようになっている。その意見を大切に支援を行う。時には職員が介入することで本人と家族の絆を大切にしよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出した時には、地名や場所を伝え職員との会話の中で懐かしく思い出す場面を作れるようになっている。納涼祭や沼田まつりでは地域の方にきていただき、馴染みの人との時間を提供できた。	近隣の商店での買い物や地域行事への積極的な参加をすることで、地域住民から声をかけていただいている。外出行事においては、利用者の馴染みの場所を含めて企画し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	場合によって席替えをしたり、その都度の様子で職員が間に入り、利用者同士が関われるように支援している。トラブルを回避するため迅速に職員が介入するようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所や利用終了となったご家族や利用者との関係性を大切にしている。相談等あれば支援できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にカンファレンスを行うことで、職員間の情報共有をしている。利用者との日々の会話の中から意向の確認をできるよう努めている。	家族の意見を参考に、月1回のカンファレンスや日々の支援の中から職員間で話し合い、情報の把握と共有を行い支援している。意思表示が困難な方には、声かけ時の表情やしぐさ等から本人の思いや意向等を推測し、支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の面会時等に、近況報告などの会話のなかで生活歴や環境を聞けるようにしている。聞いたことは職員間で共有し、ケアプラン等に活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りを活用し、現状の把握を行っている。職員からのアプローチ等で有する力の現状把握をしている。また、個人記録を書くことで現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や入所前のケアマネージャーから情報を収集し、モニタリングやカンファレンスにて集約し介護計画に反映している。また、時にはドクターや看護師からの見方も反映し作成している。	本人、家族の希望を聞き、また入居前の関係者等から確認した情報をもとに、介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、状態の変化時はその都度計画を見直し、介護計画は日々の記録用紙にも印字され、計画に沿った支援を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にはその人の生活をそのまま記載するよう指導している。憶測や感情は入れずありのままを記載し分かりやすい記録になるよう心かけている。また、いつでも開示できるようにしている。記録の確認をすることで見直しにも役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに対応できるよう努力している。業務におわれず1日をゆっくり過ごしていただいたり、役割を持っていたり柔軟に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われている認知症カフェやイベントに参加し、地域の中で生活している事を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関との連携を密にし、必要時に適切な医療をうけられるよう支援している。月に2回の訪問診療でのドクターからの話等は、家族に随時報告している。	月2回、系列医療機関の医師による往診を、全利用者が受けている。その他、毎週看護師の訪問があり、病気や健康についての相談を行い支援している。通院や検査受診の際は職員が同行し、結果を家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の定期的な訪問時に、相談をしてスムーズに受診をうけられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供をしっかりと行い、早期に退院できるよう相談員や看護師と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を、入居時に説明している。家族の気持ちも考慮しながら、話し合いを行い急変時の対応等の方針を決めている。	契約時や状態の変化時において、事業所の看取りに関する指針をもとに説明を行っている。看取りの経験があり、事業所での生活を最後まで希望される場合は、医師、看護師と相談しながら、できる限りの支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の意向確認を行っており全職員が対応できるようになっている。応急手当や初期対応の訓練を定期的に行う必要があるため、今後取り入れていかなければならない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回行っている。火災想定だけではなく地震想定でも訓練を行った。地域との協力体制では運営推進会議で連絡している。今後、地区の消防団の方にも参加してもらえれば協力体制が強くなると思う。	年2回、消防署立ち合いのもとに、火災や地震想定での避難訓練を行い、訓練時は運営推進会議メンバーや地域住民に参加を呼びかけ、市の担当者が参加している。飲水・食品等、約3日間分を備蓄している。	利用者が避難できるように、構想にある地元消防団との協力や多くの地域住民の協力が得られるような取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室の扉が開いたままにならないようにしている。利用者と話しをするときも、話がもれないような対応をとっている。職員間での利用者の話をするときや申し送り等は、利用者がいない場所で行う等配慮している。	大きな声での呼びかけをせず、丁寧な言葉遣いに注意している。利用者に関わる話や排泄支援等においては、誇りやプライバシーを損ねないよう周囲にも配慮した対応に心掛け、居室の扉やカーテンの開閉時にも細心の注意を行い、尊厳を大切に支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常においてすべての自己決定は難しいが、希望をきけるときには利用者が自己決定できるように、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる範囲で、利用者がしたいことを提供したり出かけたい希望へ対応したり、職員都合にならないよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性にはひげそりや、起床時は整髪し身だしなみに気をつけている。髪が伸びたときや家族から希望があったときは、理美容も施設に美容師を呼んで行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	目でみても楽しめるように工夫したり、職員と会話しながら食事をしたりして楽しい時間になるよう配慮している。準備の段階から一緒にできるように食事までの流れを改善していきたい。	職員は、利用者の希望を聞きながら献立作成・調理を行っている。利用者は、職員と一緒に食材購入や後片付け・食器洗浄など出来ることをしている。ときには、ホットプレートや大なべでの調理・うどん打ちなど、利用者・職員と一緒に食事作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療機関や看護師との話し合いや体重の変動をみている。食事携帯を個々に合わせて提供している。記録を付けだれが見てもみやすいようにしている。時々、管理栄養士に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアの声かけ、必要に応じ介助している。歯科受診は必要な時に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを記入し、排泄パターンの把握に努めている。定期的な時間での誘導と合わせて、仕草などで見極められるように努めている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導・介助を行い、また定時対応以外においても、しぐさや表情などを観察し個別に支援して、完全におむつの対応にしないよう心掛け、布パンツで過ごせるよう排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ドクター・看護師とも連携をとりながら、処方された薬の調整や食物繊維をとれるような食事が提供できるよう考慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望を聞いて無理な入浴はしないようにしている。基本の予定は決めてあるが、その日に入れない場合は翌日に入るなどしている。また、自立して入れない人には安全のためリフト欲を行っている。	入浴は一日おきの実施を基本としているが、本人の希望や健康状態により臨機応変に時間・曜日等の変更を行い対応をしている。朝風呂や温泉利用・入浴後の飲酒等、希望に沿った対応をしている。利用者の重度化に伴い、リフト浴を導入している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせ、就寝介助を行っている。安心して気持ちよく眠れるよう、寝間着に着替えてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療時に変更等があった時は、情報の共有を行い徹底している。薬剤情報は職員がすぐに見られるようになっている。変化があれば、看護師に報告・相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブや四季のイベント・外食等で気分転換を図っている。役割については、得意な事をやっていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族からの希望で外出したり、個々に対応も行っている。また、毎日の買い物と一緒に出かけたりしている。	天気の良い日は、玄関先での外気浴や近隣の公園を散歩している。その他、近隣の食堂への外食やドライブを兼ねた季節の花見・果物狩りなどに出掛けている。また、米寿のお祝いに家族と一緒に温泉に出掛ける等、家族と協力しながら外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金の管理をしている方はいないが、金庫で預かっているので希望時は出金している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話のときは、希望があれば利用者にかかわる事をしている。利用者から希望があれば電話をかける支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング内は整理整頓をこころがけている。季節感を出すために季節の飾りつけをしたりしている。その際利用者にも協力してもらっている。 温度・湿度調整はこまめに行い居心地よく過ごせるよう努めている。	共用の居間は明るく、大きな窓からは、目前に広がる山々などが望める。畳敷きのコーナーにこたつの設置を予定したり、中庭で散歩ができるよう改修を行ったりしている。掲示スペースには、地域の新聞や行事のスナップ写真が飾られ、皆で楽しめるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをいくつか置きつつろぎながらテレビが見られるようにしたり、時々席替えを行っている。今後畳スペースも使用したいと考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が過ごしやすい様子を見ながら、居室のベッドの位置などの工夫をしている。家族からの要望があれば迅速に対応できるようにしている。	居室は、畳が敷かれている。ベッドは、身体状況に合わせて複数の規格から選べるようになっている。居室には馴染みの家具や寝具等が持ち込まれ、家族の写真や好みの小物が自由に飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室が分かるように表示をしたり、トイレもわかるように大きく表示している。		